

東神楽町地域公共交通会議

平成20年8月1日設置



概要

東神楽町は北海道のほぼ中央に位置し、旭川市に隣接するとともに東川町・美瑛町と接しており、旭川空港を有する道北の交通結節点です。町の面積は68.50平方キロメートルで、丘陵地、平野部、農村地帯にまたがる7地区で構成されています。令和6年3月末時点の人口は9,770人、世帯数は4,381戸で、市街地地区とひじり野地区に人口の8割超が集中しています。一方、他地区では高齢化が進行しており、地区ごとに移動環境や交通ニーズに差が見られます。

○地域公共交通の現況

- ・旭川電気軌道(6路線)
- ・町営スクールバス(3路線)
- ・千鳥ハイヤー

公共交通の概要

○地域公共交通の課題

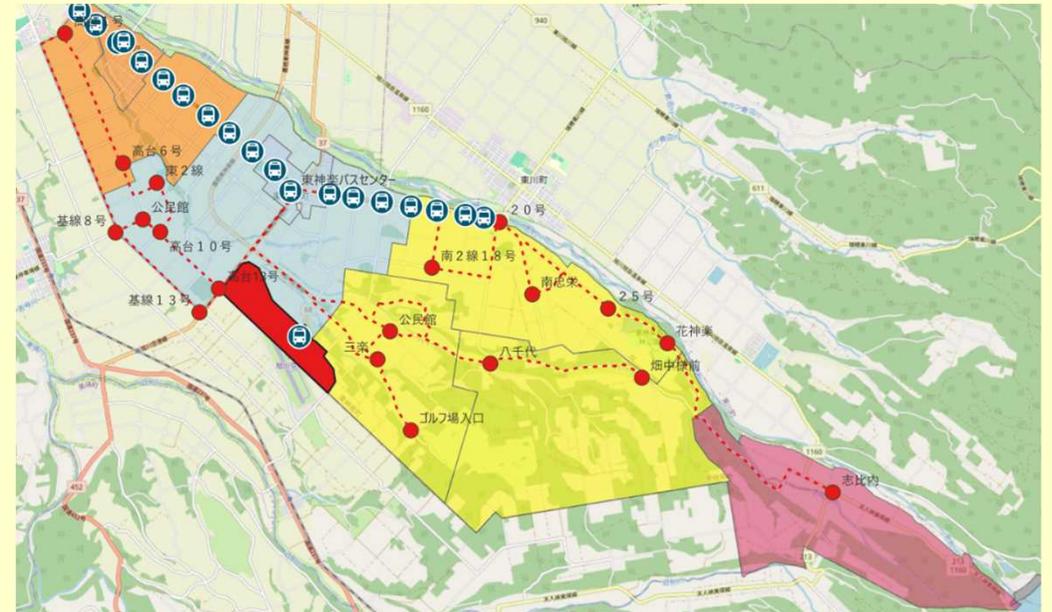
- ・路線バスにおける運行本数と時間帯の不便さ
- ・タクシーの供給不足
- ・持続可能な公共交通体制の構築

○調査の主な内容

- ・既往調査による、地域公共交通の現況の把握
- ・住民ニーズ調査～令和8年1月9日)
- ・オンデマンド交通実証の運行実績・アンケート等の結果整理
- ・上記を踏まえた計画案(方針・目標・施策等)の検討・取りまとめ

○地域公共交通会議開催状況

- 5月15日 第1回会議を開催(R7年度事業計画等)
- 8月27日 第2回会議を開催(オンデマンド交通実証運行の実施概要及び運行条件について)



●事業の結果概要

実施した調査・整理

- 既往調査の分析
 - 住民の移動目的、手段、時間帯別の実態、課題を整理
- 住民アンケート
 - 移動ニーズや意向の把握(～R8.1.9)
- 実証事業の実施
 - オンデマンド交通の実証運行から交通空白への対応策を検討(～R8.1.30)
- 計画案の取りまとめ
 - 委託事業者と協議し、基本方針・目標・施策を取りまとめ中

調査から判明したこと

- 移動需要の偏り
 - 通勤・通学・通院等の多くは旭川市との往来
- 地域別の満足度格差
 - 人口が集中する市街地・ひじり野地区は高いが、丘陵・農村部は不満傾向
- 将来への不安
 - 現状は自家用車依存だが、将来的な公共交通の必要性は高い。
- 新たなニーズ
 - デマンド交通等の柔軟な手段への要望が強い。

●事業の結果概要

今後の方向性

- 地区特性を踏まえた公共交通ネットワークの再整理
- 町営バスの利便性(ルート・台や)と運行効率化
- 交通空白地への対応として新たな交通手段の位置づけ
- 利用促進策の実行及び継続的な評価・見直しの仕組み構築。

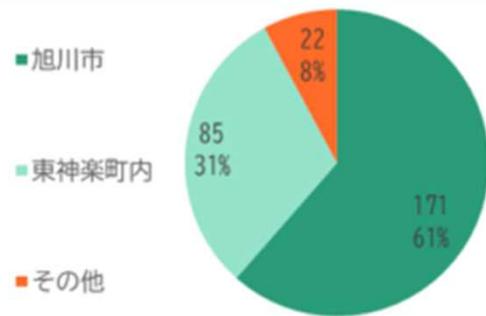


図 東神楽町在住者の通勤、通学先【人】

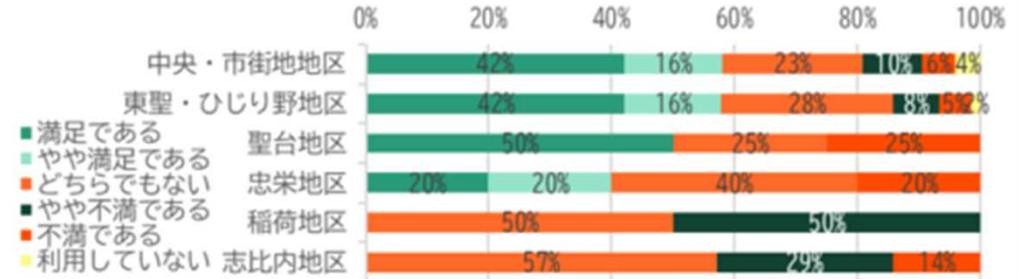


図 通勤、通学の移動に対する満足度



図 買い物の移動に対する満足度



図 通院の移動に対する満足度

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

基本方針(案)

- 地区ごとの異なるニーズを踏まえ、「既存サービスを基軸としつつ、実情に応じたネットワークの再構築」を行う方針。

具体的な施策(案)

- 役割分担：路線バス、町営バス、タクシーの役割を明確化
- 町営バス：ルート・ダイヤ見直しで利便性と効率を向上
- 交通空白対応：オンデマンド交通等の活用を検討
- 情報提供：利用促進に向けた案内を充実

東神楽町地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針



●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・今後、地域公共交通計画策定後についても、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についてさらに検証していくことをご検討いただきたい。